

【ねがいましては】

平成21年6月25日

KYOWA SCHOOL

第224号

「フラッシュバック」

あまり明るい言葉ではないのですが、誰にでも起こりえる現象だと思います。私は医学の専門家ではないので、もし違っていたとすればご指摘いただきたいのですが……。例を挙げるとすれば、「食わず嫌い」は、過去にその食材に対し、悪い思い出が作られると、以後はそれを見ただけで食べたくないという感情が現れます。「乗り物酔い」も、過去に酔った経験をする、以後もまたあるのではないかという恐怖から、乗る前より気分が悪くなったり……。

高所恐怖症、閉所恐怖症などもその例だと思います。

私の小学校時代の担任であった先生も、ボール投げができませんでした。過去にソフトボールをしていたことがあり、誤ってボールが知人の顔面に当たり、怪我を負わせてしまったのだそうです。それ以来、ボールを投げても腕がこわばってしまい投げられなくなったと聞きました。腕の筋肉が異常なのではなく、こころが動きを止めてしまうのです。

過去の思い出は、その時々フラッシュバックされ、こころの強い反応により反射的に動きを止めてしまいます。

勉強の世界にも、このような現象が見られると思います。

勉強が嫌いになる原因の多くが、過去の経験や体験です。テスト評価による家庭での出来事や、学校での周りからの一言など、こころを持った子であれば、簡単に恐怖を覚えてしまいます。気が小さいと言われればそれまでなのかもしれませんが、私はそうは思いません。そのような子たちは、とても繊細な気くばりができるものと思っています。こころが傷つくことで、苦しみを味わいます。他人のこころを眺めることができるようになると、同情できるようになります。他人の悲しそうな表情を見、そっと気遣うようになります。思いやりが生まれます。

学校での「勉強嫌い」現象は、比較にあるといっても過言ではないと思います。運動会が大好きだという子はきっとカケッコが速いのでしょう。ストップウォッチを持って100マス計算をする先生方もいらっしやると思いますが、最後にできた子はどんな心境なのでしょう。周りの子たちは口には出さなくても、心の中では……。

確かにどのようなことにも優劣は発生します。だからこそ子どもたちの成長の現場では、「人は優劣ではないのだよ、人はお互いに思いやるのが大切なのだよ。」ということを最優先して伝えなければならないと思います。その根源となるものが『家族』だと思います。

子が精一杯に学校生活を送っていれば、どのような評価を持って帰ってきても、しっかりと褒めてやるべきでしょう。

『支えあう』という言葉にふさわしい場所は、学校それとも家庭……。

わがままにどのようにして対処するか、お悩みになっているお母さま方は多いと思います。

言うことを聞かない。自分の我を通そうとする。心労は溜まるばかりです。

そのようなお母さま方にお奨めしたいのが、『弱い母』です。普段は強くても、本当に参ったというときには、おおいに弱気になっていいのではと思います。言葉なく、そっと涙を流す母。子のしたことに深く傷つき、ただただ途方にくれて涙を流す母。

そんな母を見、苦しめた自分を反省し、母を救おうとする子。そこに絆が誕生します。そこに溢れる深い愛情は、子に宿した「フラッシュバック」を柔らかく包み込み、分解して行くかもしれません。家族とはそのようなものではないのでしょうか。

お願いがあります。

お子さんと心の触れあう時間をたくさんお持ちになってください。会話をなさってください。ある日、小学生たちにこんな質問をしました。「家でお母さんと会話している人？」2割もいないのです。その他は一方的に言われるだけの子がほとんどでした。「はやく〇〇しなさい。」「宿題終わったの。」「手洗ったの……。」言われるだけ……。

たしかに子どもたちは言葉（語彙）が少ないです。あたりまえです。その言葉の少なさに拍車をかけているのがお母さまの接し方にあるかもしれません。普段の何気ない会話が自然にできればと思います。

何気ない会話は、何気ない質問もできるようになります。学校からの宿題なども何の抵抗もなく質問できるようになります。その時、一緒になって向かってくれる母。わからなくても「じゃー、いっしょにやろ。」と、傍らにいてくれる母。

私は母ではないので、傍らにいるおじさん、ということになります。何気ない質問がフワッとできるよう、子どもたちに声をかけるようにしています。「今の質問、いいねー。」

勉強嫌い退治（フラッシュバック消滅）が、私の仕事なのかもしれません。

質問したくて私のそばに座りたがる子たちよ、君たちのご家族は、きっと温かい方ばかりなのですね。

だって私のこと、家族を見るような目で見つめてくれるものね。ありがとう！